

## 10人のスーパープレゼンター2020

### 柴崎教養ゼミ・TEDセミナー

#### 話すことと聞くこと

私は人前で話すことが苦手だ。昨年度の授業で数回プレゼンをしたときも、極度の緊張と慣れないプレゼンに手こずってしまった。人前でプレゼンをする機会はこの先も多く、回数をこなして少しでも慣れておきたい、他人のプレゼンをたくさん聞いてみたいという思いから柴崎先生の教養演習を選んだ。

自分が選んだTEDトークをみんなで見てからそれについてプレゼンをするため、聞く側は2回連続でプレゼンを見ることになる。発表者は飽きないようなプレゼン作りが必要になるし、またTEDトークで分かりづらかった部分は誰にでも理解しやすいように説明することが大事である。私が最も苦戦したのはこれだった。何度も繰り返し見て自分なりに解釈し、一度しか見ていない人に伝えていく。自分は理解している状態で話す、聞く側はほぼゼロに近い状態なのだというのを強く意識した。言葉を選び、話し方を工夫しようとしたが、頭では分かっているにもかかわらず実際の発表では焦りと緊張で自分が思った通りにはいかなかった。学生にも社会人にも通用することだが、「準備」がいかに重要であるかを学んだ。

TEDトークは世界規模の講演会であり、優れたプレゼンテーション・スキルを持った人々が多い。しかし、自分と同じくらいの年齢の大学生でもTEDトークと同じように引き付けられるプレゼンをする人もいる。実際、他の受講生のプレゼンを聞きながらしばしば圧倒された。資料の作り方や話し方、テーマ選びが素晴らしく、内容が驚くほどずっと入ってくる。そういった人に共通しているのが、分かりやすいということだった。話に一本の軸があり、最初から最後までその軸に沿って話している。そのため、長いTEDトークを見てからの発表でも飽きることなく聞くことができる。プレゼンに限らず、自分が話すときは軸を意識することで聞きやすくなるのだと思った。

この一年間、残念ながらすべてオンラインでの授業だったため聞き手の反応をうかがいながら発表をすることはできなかったが、逆にそういった状況で発表をする練習になった。選ぶテーマは人によってさまざまであり、考えることも感じることも異なる。

毎回の授業を通じて自分と異なる価値観・興味関心を持った人々と話し、自分の視野がどんどん広がっていったと感じる。たくさんの意見を聞き、自分自身の考え方が変わったものもあり、また新たに興味関心を持つようになったものもある。この教養演習を通して期待以上の学びを得られたと感じた。人前で話すことや人の話を聞くことが自分にとって多くの学びになる経験ができ、とても価値のある時間になった。この経験を今後にもうまく活かしていきたい。

#### 教養演習を通して学んだこと

私は柴崎先生の教養演習を通して以下の2つのことについて学んだ。1つ目は、伝える力である。柴崎先生の教養演習では発表やグループワークなど自分の感じたことや意見を発表する場が多くある。例えば各授業では一人ずつパワーポイントを用いながら、自分が選んだTEDトークについてまとめる他、それに関連した自分の考えを発表する。その際には、話の構成やパワーポイントの配置など聞き手が理解しやすいように準備をすることが必要だった。確かに最初はどのようにすることでうまく伝えられるかわからずかなり苦戦した。しかし、教養演習のメンバーや柴崎先生に発表について良いところも悪いところもフィードバックをいただくことで、自分の発表を客観的に見ることができた。そのおかげで自分に足りないところを自覚し、2回目の発表では足りない部分を意識しながら発表ができ、1回目よりは良い発表になったのではないかと思う。自分の発表に加え、他の人の発表を見ることで、自分には無い良さを発見することができた。それらを取り入れることで、教養演習の枠を超えて普段のアルバイトや他の授業でも生かすことができた。自分の考えなどを他の誰かに伝える力はここから就活、ひいては社会人になっても必要な力だと思うので、学んだことを生かしていきたい。

2つ目は、考え方の多様性である。先述の通り、柴崎先生の教養演習では、発表の他にグループワークがある。そこではフランクな話題から難民問題や新型コロナウイルスについてなどよく考えなければいけない話題まで様々なテーマを扱う。例えば難民問題についてなどは友人と普段話すことは中々ない。だからこそ、自分の考えや意見が凝り固まってしまうことが往々にしてある。そんな中で忌憚の

ない意見をそれぞれ出すことで、今まで考えもしなかったことに気づくことがある。今年度のグループは1年生に2年生、男子に女子がいる上に、それぞれ異なるバックグラウンドを持つため、様々な角度、立場から意見や考え方が飛び交う。ゼミナールに参加する前の2年生の段階で考え方の多様性を改めて感じることは今後の活動において大きいと思う。

私は柴崎先生の教養演習に入る前まではプレゼンテーション能力だけが上がると思っていた。しかし、実際に通年に渡って履修してみてプレゼンテーション能力だけではなく、様々なことを学ぶことができた。それらは大学での通常の講義では学ぶことができないものだと思うので、履修して良かったと振り返って強く感じる。

教養演習で学んだことを生かすためにも今後様々なことにチャレンジをしていきたい。

### オンラインでのプレゼンテーションで 得られた経験

コロナウイルスの影響で例年とは異なる環境の中行われたこの授業だったが、授業の特性上オンラインでも対面と変わらないくらいの授業が行われた気がする。むしろオンラインでのプレゼンテーションというのは増えていくと考えられるのでその点ではよい経験ができたといってもいいかもしれない。

まずは自分の発表から振り返ってみたい。TEDの中からテーマを探すわけだが、この時点で様々なTEDトークをみて、著名人のプレゼンを聞くことで様々なことを学ぶことができた。例えば立ち居振る舞いや工夫されている点など、参考になるものはたくさんあった。その次にテーマを決めたらパワーポイントを作るわけだが、オンライン上でもわかりやすく伝えるために文字の大きさや配置、図や写真の挿入などを考えながら取り組んだ。一番難しく感じたのはやはり発表だ。一度も実際にあったことない人たちに画面を通してプレゼンを行うというのは困難なことが多い。実際自分が感じたのは他人の反応が読み取れないことの難しさだ。対面状態であれば説明していて相手が理解しているかどうかは表情などでも読み取れるがオンライン上では難しい。また相手にも正しく画面が表示されているかもわからないし声が聞こえていない可能性もある。そのような

ところで注意しなければならない点が多いと感じた。

次は他人の発表を見た感想だ。授業を通して感じたのは他人の発表を見ることで得られるものがとても多いということだ。10人いれば10人それぞれの発表がありそこには個性も現れてくる。パワーポイントの作り方や発表のやり方も異なって、自分では思いつかなかったようなことを学べたり吸収することができた。実際授業を受けていた全員が、二回目の発表では一回目に学んだことを生かしていてクオリティが上がっていたことを感じた。

この授業をとった理由というのはプレゼンテーションの力というのは社会に出てからも役立つもので自分の力にしたいと思ったからだ。実際一年間の授業を通して経験を積んだことで一年前の自分より確実に成長を個人的には感じている。正直オンラインのほかの授業では物足りない気がするが、この授業では大いに吸収できるものがあった。

### 1年間を振り返って学んだこと

私は「幸福と成功の意外な関係」「崩壊しゆく難民制度を立て直そう」「正義とはなにか」というテーマでプレゼンテーションを行った。自分と9人のクラスメートの発表を通して、「有意義なプレゼンテーマの設定」「効果的なパワーポイントの作り方」「ファシリテーションスキル」の3つを特に学んだ。

まず、有意義なプレゼンテーマの設定方法について述べる。聴衆を惹きつけるために「テーマ設定」は非常に重要な点である。最初のプレゼンは自分が面白かったTEDトークについて紹介する形で発表を行った。テーマ設定は内容の面白さ、理解しやすさ、伝えやすさの3点を軸に決定した。しかしこの形式では伝えたいことがまとまりにくく、納得のいく発表ができなかった。2回目からは「自分が実際に興味を持っていて、伝えたいこと」を軸に発表した。TEDトークや書籍からではなく、普段自分が考えていることからテーマを決めて、それに関連するTEDトークや具体例をいくつか挙げて選んだ。その結果、テーマ設定には時間がかかったものの、原稿作成時間は減り、一貫した主張が伝えられた。難しくても興味がある話題のため、噛み砕いて自分の言葉で伝えられた。また、自分オリジナルの論理を組み立てることができ、興味を持ってもらいやすかった。

加えて、効果的なパワーポイントの作成能力も向上した。高校や1年の時もパワーポイントは使ってきたため、基本的な操作には慣れてきていた。しかし通常の授業でプレゼンを行う時には「内容」を重視して、「見やすさ」には気を配れていなかった。そこでこの授業では、視覚的なわかりやすさに力を入れてみた。最初はイラストをふんだんに使って、文字を少なくする工夫をした。クラスメートのプレゼンを見ることで、背景や図形など細かい工夫を凝らしていたり、シンプルを追求して伝えたいことだけを強調していたり、と様々なアイデアを吸収できた。そのアイデアを参考に自分のパワーポイントを工夫することで、楽しく、相乗効果でスキルを上げることができた。

最後にファシリテーションスキルを獲得することができた。この授業では、発表だけでなく、自分でディスカッションテーマを提示して、そのテーマについて議論を行った。議論が進みやすい話題を提示ために、例を交えながら、具体的に話す工夫をした。また、時間配分にも気を配ることができ、最終的には90分の授業のファシリテーションもできるようになった。このスキルは他の授業や、インターン先での会議でも活用することができている。

以上で説明したように、この授業ではプレゼンテーションを行う上で適切なテーマの設定をし、わかりやすいパワーポイントを使って、プレゼンテーションをする力、さらに議論のファシリテーションをできるようになった。他の授業でもプレゼンテーションを行う機会は多いので、今回学んだ点に気をつけながら、今後もプレゼンスキルを向上させていきたい。

### この一年間、講義を通してで得たこと、 これからの自分に活かせること

私はこの一年間、柴崎先生の教養演習を受講したことで、得たことがとても多かったと感じました。入学したての当初の私は、将来、何事においても大切であるプレゼン能力を身につけたい、実践的な能力を身につけたいと強く思っていました。また、英語の能力も向上したいと同時に感じていたので、英語でも聞けるTEDをもとにプレゼンをする子の講義に惹かれ、応募したのを改めて思い出しました。まず、この一年を振り返り、一番強く思うことは、

同じような志を持つ人たちと貴重で、とても有意義な時間を過ごすことが出来たことです。特にゼミ内でのグループセッションでは、それぞれが経験してきたこと、または、現在経験していること、そしてそこから得たことを交換し合える環境が整っていて、本当に有意義な時間を過ごすことが出来たと思います。また、様々な意見を聞くことで、自分にはない価値観や考え方、捉え方を知ることが出来、本当にワクワクが止まらない、楽しい時間でもありました。最初の方は他人の意見、Ted発表者の意見を鵜呑みにし、自分も同じ意見を持っていると思い込んでいましたが、途中から、他人の意見を批判的な目（否定することはあつてはならないと思う）で見ることによって新しい視点から物事を考えることが出来るようになったと感じています。これは私にとって、とても大きい成長になったと思います。

また、Tedを見ることによって、関心を持っていなかった世界的な問題や、様々な世界各国の人の意見、考え方、価値観を知ることが出来、自分の力になったなと思います。きっと、2年生になってもTedは見続けると思います。このTedの動画は、本当に自分に刺激、知識を与えてくれますし、英語のリスニング能力も鍛える事が出来る。一石二鳥どころではないです。中には、もちろん自分の意見とは異なる内容の動画もありましたが、否定的に捉えるのではなく、一つの意見として捉えつつ、自分の意見をしっかりと持つように意識することが出来るようになりました。

この一年得たことをこれからにどのように活かすことができるのか、そこが重要になってくると思います。他人の意見を否定的に捉える、鵜呑みにするのではなく、批判的に捉え、自分の意見もしっかりと持つこと、このことはどんな状況においても活かすことのできる能力だと思います。時には、他人に同情し、自らの意見を殺さなければいけない時もあると思います。そんなときでも私は、自分の意見と相手の意見を照合し、他人に伝える自分の意見を持つことが何より大切なのではないかと思います。この一年間、私に本当に有意義な環境、時間を与えてくださった、柴崎先生、Tedのみんなには本当に感謝しています。ありがとうございました。この一年間で培ったものを皆さんが活かし、より一層成長した姿で、様々なセッションが出来ることを楽しみ

にしています。

### この1年間で成長した能力

私が初めて人前でプレゼンを行ったのは高校三年生、美術系の授業での事だった。その授業では、自分が考案した商品を他の生徒の前で機能や想定価格などについて説明をした。その当手を振り返ると私には課題があったように感じる。それは台本を読んでいる印象を聴いている人々に与えてしまっていた点である。これでは相手にこちら側の気持ちや真意を伝える事は出来ないだろう。この教養演習講座では、高校の時に感じた自らの失敗を生かしプレゼンの作成を行った。台本は作らずに、パワーポイントを作成する中でそれぞれのページにテーマを与え、練習を繰り返し行いながら具体的な内容について考え発表を完成させていった。その成果もあり、自然な話し方を意識しながらプレゼンを仕上げていく事が可能になった。また、作成のこだわりとしてイラストや写真をなるべく使用せず、可能な限り話す事によって伝えるようにした。黒の背景が基調の単純なデザインで文字数を抑えたとしても伝え方次第で情報をしっかりと提供できる事を学んだ。それに加え、自由テーマの発表でメキシコで起きている社会問題について取り上げた際には、ベースにした映画だけでは足りない情報を自身で調べ補う事で、映画の内容をただまとめるだけでなく、より有益なものを作り上げようと思った。また、本講座で得られたものはプレゼンの能力だけではない。討論技術もまた同様のものと言える。思えば今までの学校教育には議論を行う機会が少なかった。海外には討論形式で行われる授業も数多くあるが、日本では教師のみが話しながら、生徒は主に問いに対する正解を求められる為、自分の意見を話す機会は少ない。この授業ではそれぞれの発表者が選んだテーマにのっとり議論が行われるが、これは自分にとって新鮮な経験となった。当初は自分の考えを言語化して相手に伝える技術が乏しかった。自分でも何を話しているかも分からなくなった事もあった程である。相手の反応を見て意思の伝達が上手く行えていないと考えた私は、なるべく情報を小分けにして話す事を心掛けるようになった。やはり討論や話し合いにおいてもシンプルさがものを言うのだろう。そして、TEDトークを見る機会が増え教養が深まり、自分の視野

が広まった様にも感じる。特に難民問題について触れたものに関しては、私が「メキシコの現実」と称し平和な日本ではなかなか知る事の出来ない事物について取り上げた事に大きく影響している。本講義において、得られた事は多いが、依然として改善の余地は多い。次年度以降に同様の機会があれば、そういった課題に目を向け自身の能力の向上に励みたいと考えている。

### 本講義を通して得られたこと

プレゼンテーションは、社会に出てから必ず求められる能力であり、人々に情報や自らの思いを伝える、コミュニケーションの一つです。しかし、残念ながら座学中心でプレゼンテーションをする機会は、私たち学生にはそう多く与えられていません。よって本講義を通し、この機会にプレゼンテーション能力はもちろん、語彙力や思考力、傾聴力を身につけることは必ず将来の自分への糧となると期待し履修しました。

本講義は10人という少人数で構成され、毎週一人ずつ自分が用意したテーマのプレゼンテーションを行いました。単にプレゼンテーションを行うだけではなく、他の学生から、自分のプレゼンテーションへの批評をあげてもらえるため、自分の発表の優れた点・改善すべき点を知ることができました。また他学生のプレゼンテーションを見ることは、自分にはない新しい表現方法やアイデアの気づきの場にもなりました。さらには、自分のプレゼンテーションが批評されるように、他学生のプレゼンテーションも批評するため、聴き手の立場を経験することができました。プレゼンテーションは、いかに相手に分かりやすく伝えるかが重要であり、聴き手の立場を経験したことで話し手としてでは分からなかった、話す速度や表情、声の音量にも目を向けられ、どれも軽視出来ないと気づけました。

そして、この講義ではプレゼンテーションの題材として「TED Talks」を利用しました。「TED Talks」には、日々を充実したものにするためのたくさんのヒントがありました。リーダーとはどういう人材なのか、ストレスと友達になることとはどういうことなのか等のテーマは人生の指針となるものばかりで、自分の価値観を深められました。それは“自分の知らないこと”“自分と違うこと”に好奇心を持ち続け

る姿勢でした。自分のルールややり方に固執するのではなく、主体的に向き合い理解することが何をやるにも大切なのだと気づかされました。また、講義の最後にはプレゼンテーションのテーマを学生だけで議論する時間がありました。発言者が違えば意見も十人十色であり、毎回様々な意見が出て、自分にはなかった視点を知ることができました。人生においてこの多角的視点を持つことは、自分を時に客観的に見ることを可能にしてくれると考えています。プレゼンテーション能力向上のために履修した講義でしたが、自分の想定していた以上の学びを得ることができ、選択して本当に良かったと思っています。

### このゼミで学んだこと

私は今年度の教養演習を受講して本当に沢山の事を学ぶことが出来たように思う。その中でも特に学んだり、身につけたりする事ができたスキル、心構えなどを大きく分けて3つに分けて説明する。

1つ目はやはりプレゼンテーション能力だ。今年は全てオンラインでの発表となってしまった為、発表において身振りや手振りを使うことが出来なくなってしまい、発表が難しかった。だがその中でいかに声や表情、間を有効に使って内容を分かりやすく説明するかを工夫して発表することが出来た。また、今年1年間自分のプレゼンの際に毎回「間」や「笑い」など自分なりにテーマを決めて発表する事が出来たと思う。特に12月17日に私が行った「笑いについて」の自由テーマのプレゼンは個人的には本当に納得のいく内容だったと思う。自分の個性や意識していた事、伝えたい事、1年を通じて学んだ事などの全てをあのプレゼンの中に入れる事が出来た。

2つ目は人の良い所を見つけるという事だ。この教養演習では発表者がプレゼンを終えた後、必ずその発表の良いところを皆で見つけていた。自分が発表していた時だけでなく、別の生徒が発表をしていた時も「ここがいけない」という風にダメ出しされるようなことは無く、それらを個性と認め、「自分ならこうした」というような意見を求められている事の方が多かった。だからこそ発表者は毎回自信を持ってプレゼンに臨む事ができ、発表を聞いている人は発表の良いところを積極的に見つけようと努力していた。これはほとんどの物事を批判的な考え方で捉えてしまう癖があった私にとって大きな変化にな

ったように思う。

3つ目はディスカッションにおいて他人に対して自分なりに要旨をまとめて話す能力だ。これは社会に出たら出来て当然の事だが、実際自分はかなり苦手だった。今年はオンラインの為、実際に会ったこともない人たちと毎回一つのテーマについてディスカッションを行ったが、初めの方は本当に話す事ができなかった。しかし、他の受講生の先輩、同輩との意見交流を積み重ねる事で他の受講生の方々を参考に自分の経験談や考えをどんなスピードや順番、間で話をすれば相手に興味を持つように話す事が出来るかが少しずつ分かるようになった上に積極的に議論に参加する事も増えた。

1年間を通してこの教養演習ではとても充実した時間を過ごす事が出来たと思う。強いて言うのであれば1度だけでもオンラインではなく、対面という形でプレゼンをして対面での発表ならではの独特の緊張感を体験したかった。だが、このオンラインで発表をしたという経験は他ではなかなか出来ない貴重な事だと思うのでさらに違う場面で活かしていきたい。

### プレゼン力だけではなかった

私が当初この教養演習を通して学び得ようとしたものは「相手に伝える力」だった。大学生になって将来どのような人間になりたいかをぼんやりと考えたときに、日本や世界が直面している社会問題を解決に導く政策を提言し、実行できる人になりたいと思った。そのために今できることを考えたときに、学部の勉強を通じて社会問題について考える基礎を身に着けることに加えて人前で話す練習・プレゼンテーションの練習が必要だと思った。政策を考えて提言し実現させるには、多くの人を説得して理解を得る必要があるからだ。

しかし一年間この教養演習に参加して実感したのは、プレゼンの技術・伝える技術よりも前に、自分には物事を主体的に考えて意見を持つことが欠けていたということだ。この授業では各自が興味をもったTED TALKやテーマについて話すため、自分が今まで関心を持ってこなかったもの、知らなかったことを取り上げられることが多い。その中でプレゼンテーションを聞き、ディスカッションで他の人と話し合う必要があった。周りの人が自分の経験や考

えを次々と話していく中、自分はテーマに関連した体験などが思い浮かばなかったり自分の考えを持っていないかたりしてなかなか発言できないことが多かった。自分が普段いかに考えていないことが多いか、話題に上がったテーマについて自分の立場や考えを出すということをしてこなかったかがわかった。同時に、この教養演習でやっていることこそが本当の学びなのだと感じた。各自が自分の経験などをもとに意見を出す中で、私が全く思いつかなかった面から考えが出ていて刺激された。大学以前までの教育の延長で受動的な態度では得られるものは少なく、毎回何をしているのかわからないまま過ぎ去ってしまう。一方で、主体的に、疑問を持ったり自分の意見を考えたりしながらプレゼンを聞いてディスカッションに参加すれば、自分の立場や価値観を自己認識できるようになる。また、自分の興味の幅が広がり、様々な分野の本を読むようになった。

総じて、この授業は自分にとってハードだったものの、いろいろな気づきを得ることができて爽やかなものだった。たくさんあった反省点を解消できるように今後の学生生活を過ごしていきたい。

### 自分を高めるのに最高の環境でした

もともと私は多くの人の前でふざけるのは得意でも真面目なことを話すのは得意ではありませんでした。将来はカッコいいOLになりたい、多くの人前でプレゼンテーションをして広く認められる仕事のできる女性になりたい、そんな思いを持っていたところに目に留まったTEDトークに基づいてプレゼン能力を磨くこのゼミはとて魅力的に見えました。

初回の授業で同じゼミをとったメンバー同士で自己紹介をしました。各々が目標を持ってこのゼミに応募していて、同じようにプレゼンテーションの能力を使って将来活躍したいと受講意欲のある人が集まっていることが分かったうえに先生も優しくとても生徒想いの方で、環境に感謝するとともにモチベーションの向上を強く感じました。

自分の発表の順番が初めて回ってきたときにはとても緊張してしまってパソコンの前で震えていました。今までの自分の悪い癖は、多くの人前で真面目な話をしようとする途端に緊張が押し寄せてくることでした。初回でその癖が無くなるとは思って

いませんでしたが、聞き手が画面越しでもここまで緊張するとも思っていなかったので、画面越しという初めてのシチュエーションに少し力んでしまいました。初回はパワーポイントの使い方も不慣れでタイミングもずれてしまったこともあり、上手いかなかったことの方が多かったと反省しましたが、ゼミのみんなは自分が自信をもって工夫していたところを細かくくみ取って私のプレゼンテーションのよかった点として発表してくれて、また自分が気づかなかったいいところも気づいてくれました。自分の反省すべき点だけでなく長所となる点が明確になったことが一番成長できたことだと思います。

自分の発表だけでなく同じゼミ生の発表を見ることで、一口にプレゼンテーションと言っても人によって雰囲気や全く違うことを初めて知ることができました。いいと思ったスライドの作り方や言い回し、発表の雰囲気を自分で吸収することはもちろん、良かった点を発表者に伝えるために人のいいところを探す力も磨くことができたと思います。

また、テーマに関する討論をする場面では、普段周りの友達とはゼミ生がトークのテーマに選ぶような話はしなかったため、同世代で今まで同じ程度の勉強をしてきた仲間と話す内容は全て私にとっては新鮮でした。考え方は多種多様で、自分の視野が広がるとともに自分で思ったことを発表しみんなからその考え方についての意見をもらうことが楽しかったです。時には話したりないほど議論が白熱するときもあり、みんなが意欲があるからこそその体験だったと思います。

1年を通して数えきれないほどの意見交換をして自分の大切にしていけるべきアイデンティティを発見できたことが一番成長した点だったと思います。活発に活動できて成長することができたこの授業が一番楽しかったです。